

「第3回 絹谷幸二 天空美術館 キッズ絵画コンクール」表彰式開催

絹谷幸二 天空美術館は、「第3回 絹谷幸二 天空美術館 キッズ絵画コンクール」の受賞作品を決定し、表彰式を2024年3月24日に開催しました。本コンクールは全国の子どもたちに創造の歓び、楽しみを体感してもらう当美術館の柱と位置付ける取り組みであり、「キッズ・ファースト」を推進する積水ハウス（当美術館運営母体）の文化振興事業の一環でもあります。



受賞者集合写真（中央左：絹谷幸二氏、中央右：堀内容介館長）

本コンクールは、「楽しい思い出～夢見る未来」をテーマに全国の小中学生を対象に募集。前回より約1,000点多い2,698作品の応募があり、グランプリ1点、優秀賞3点（小学校低学年の部、小学校高学年の部、中学校の部）、館長賞1点、積水ハウス賞20点、佳作賞52点を選出しました。また148点が入選、56団体が団体賞を受賞しました。

表彰式では、堀内容介館長（積水ハウス株式会社 代表取締役 副会長執行役員）の挨拶を経て、出席した受賞者一人ひとりに賞状を授与しました。続いて審査委員長の絹谷幸二氏（絹谷幸二 天空美術館 名誉館長）が、子どもたちに語りかけるように講評のコメントとメッセージを送りました。最後は出席した受賞者全員による記念撮影で、表彰式を締めくくりました。

同コンクールの受賞・入選作品225点の「優秀作品展」を、5月31日まで「絹谷幸二 天空美術館」で開催しています。

●堀内容介館長 開式の挨拶

「受賞者の皆様、誠におめでとうございます。今回のコンクールでは2,698点という多数の作品をご応募いただき、佳作以上の受賞はわずか2.8%という狭き門となりましたが、厳正な審査を行いそれぞれの作品を選出させていただきました。回を重ねるごとに、情熱がストレートに伝わってくるような完成度の高い作品が増えているように感じています。一人でも多くの子どもたちにとって、本コンクールが明日への夢と希望を育むきっかけとなれば、主催者として喜びに堪えません。」

●審査委員長 絹谷 幸二氏 講評

「ご応募いただいた作品からは、皆様の絵を描く喜びやワクワクした気持ちが十分に伝わってきました。絵を描くということは科学の始まりだと私は考えています。絵画は動いているものを止めることができます。すると、その絵に描かれた対象の形や色をじっくり観察することができるようになります。一つの絵を見て、人の目になぜこのように映るのか。あるいは、なぜ美しいと感じるのか。絵画によって好奇心が刺激され、人の脳は発達してきました。これからも目いっぱい楽しむ気持ちを忘れずに、自信を持って描き続けてほしいと願っています。」

●主な受賞者のコメント

【絹谷幸二キッズ賞 グランプリ】

作品名「ぼくの楽しかった思い出 ～保育園で豆まき～」

林 伯創（りん はくそう）さん（小学校1年生・神奈川県）



「グランプリに選ばれたことをとても嬉しく思います。どうもありがとうございました。いつも妖怪の絵をたくさん描いています。この絵は保育園ですごく楽しかった豆まきの思い出です。大きな紙で作った袴を着て豆まきをしました。僕は節分が大好きで、ボスの鬼を倒したときはほんとに嬉しかったです。豆をまくときの楽しい気持ちは黄色やオレンジを使って、少し怖い気持ちは青や紫を混ぜて表せるようにしました。鬼の角の部分はすごく力を入れて描きました。」

【絹谷幸二キッズ賞 小学校低学年の部 優秀賞】

作品名「おじいちゃんの家で見た田んぼとたくさんのとんぼ」

伊勢 巧都（いせ たくと）さん（小学校3年生・徳島県）



「おじいちゃんが暮らす家で空いっぱいにとんぼが飛んでいるのを見て、すごく嬉しくなってこの絵を描きました。絵を描くときはクレパスとコンテをよく使っていて、虫の絵を描くことが多いです。この絵はとんぼの羽の色をどう塗ればいいのか、最後まで悩みました。空の色もとても難しかったです。この風景をずっと見られるといいなと思いながら色を塗りました。これからも絵を描き続けて、コンクールにたくさん出していきたいと思います。」

【絹谷幸二キッズ賞 小学校高学年の部 優秀賞】

作品名「鳥は友達」

河村 悠衣（かわむら ゆい）さん（小学校6年生・広島県）



「アクリル絵の具を使って、これまでに描いてきた作品よりたくさん時間をかけて何度も色を重ねて完成した絵なので、受賞できたことはとても嬉しいです。この絵は夏休みに家族で鳥とふれあう体験をしたときの思い出です。どの鳥もきれいでかわいくて、びっくりし

ました。絵を描きながら、たくさんの鳥たちが自由に空を飛んでいるのをいつか見てみたいと思いました。自然と動物の姿や人の表情をもっと精密に描けるように上達して、コンクールの応募も続けていきたいです。」

【絹谷幸二キッズ賞 中学校の部 優秀賞】

作品名「描き続ける」

山村 紗々乃（やまむら ささの）さん（中学校2年生・大阪府）



「大好きな馬の絵を描いているときの、普段の自分自身を作品にしました。大好きな馬とは言え、うまく描けないことの方が多いです。それでも、描き続けることでたくさんの人たちに馬の魅力を知ってもらいたい、という思いを胸にこの絵を描きました。今回のコンクールで賞をもらえたことはすごく自信になりました。たくさんの人に絵を見てもらえて、とても光栄です。」

【絹谷幸二キッズ賞 館長賞】

作品名「おどける父」

渡利 心海（わたり ここみ）さん（中学校1年生・北海道）



「受賞を聞いてびっくりしました。すごく嬉しいです。この絵は 4 歳か 5 歳の頃のスーパーでの思い出で、子ども用のカートに乗った私を笑わせようとするお父さんです。お父さんのひょうきんな性格や、家庭の雰囲気などを読み取ってもらえるようにと思いながら描きました。絵を描くときは、「物事の本質」を出せるようにいつも心掛けています。素直に感じたことや疑問などを絵で表現して、見る人たちに考えてもらえるような作品をこれからも描いていきたいです。」